

平成24年度 教員養成・採用・研修に関する各学科・各課程の取り組み

国際言語・文化学科・国語科教員採用試験に向けて

文学部国際言語・文化学科（日本語・日本文学コース）

准教授 高木伸幸

国際言語・文化学科では、国語科教員を目指す学生を対象とする教員採用試験勉強会を今年も開催しました。各県の教員採用試験の過去問題など、さまざまな国語の試験問題を解き、国語教職担当の高木による解説も参考にしながら、中学・高校国語の教科専門試験に対応できる学力を身につけていく勉強会です。平成22年度、旧国文学科の学生が集まって始めたもので、今年で3年目になります。

平成24年度は、前年度1月よりスタート、春休みに7回、4月以降は教育実習期間を除いてほぼ毎週実施され、7月の教員採用試験本番までに合計23回行われました。参加者は平均6、7名で、やや少ない気もしますが、その分参加した学生たちの意欲が強く感じられました。今後も本学における国語科教員を目指す学生たちの学力向上の機会として、この勉強会が継続されていくことを願っています。

書道コースの取り組み

文学部国際言語・文化学科（書道コース）

教授 荒金信治

芸術科書道の教員を目指す学生に対しては、一年次の授業「書道概論」や授業以外の時間を用いて常に教員養成と教員採用試験に向けての取り組みを行っています。まず、

檄 自分に負けず高等学校書道の免許状を取得しよう

—必ず高等学校の書道の先生になるのだと…心に誓いがんばろう—

この精神を確立することに努め、高校の教壇に立つ事を目指す心構えの育成に努めています。三年や四年ではもう遅いのです。

- ・用具を揃える事。当然用具は揃っていると思われるが、不足分があっては困ります。
- ・大学の授業は、どんなことがあっても欠席しない事。いや、遅刻もしない事。
- ・毎日の授業である国際言語文化学科の各科目や書道の学問は勿論のこと、一般教育、語学の授業は大切に受講する事。中・高校の時以上に大学では復習の学習時間を持つ事。
- ・授業以外に2時間以上書道教室で学ぶ事。
- ・別府大学の書道教室では「君はもう教師である」の自覚を持つ事。
- ・恩師と父母には、今の自分の姿を常に伝える事。自分の姿を伝える事。

常日頃から、4年間通して毎日教員養成に対しての取り組みと活動を実施しています。

史学・文化財学科の取り組み

文学部史学・文化財学科

教授 松 森 武 嗣

「別府大学教員採用試験対策勉強会」は、顧問教員のアドバイスを受けながらも、「主体性」「連携」「継続性」の基本方針のもとで、中学・高校教員を目指している史学・文化財学科所属の有意な学生が参加し運営している勉強会です。

創立4年目である平成24年度の活動状況としては、教員採用試験の過去問を解いてきました。学生の輪番制で、既に配付されている問題の解答・解説と、それらに関する質疑応答も行って、知識の深化を図ってきました。主に、前期では日本史と世界史を、後期では中学校社会の問題を扱ってきました。また、12月には検定協会が実施する歴史能力検定試験も受検しました。

今年度は、みんなの話し合いで決まったことでしたが、週2回の勉強会を1限目授業前（午前8時から）と放課後（5限目）に設定したために、参加者が減少し続けたことが反省材料です。

上下の交流

食物栄養科学部発酵食品学科

准教授 藤 原 秀 彦

発酵食品学科では理科の教員免許状が取得可能で、教職課程履修者は毎年2～5名程度である。この少人数の課程履修者という状況を活かし、発酵食品学科では積極的に各学年の教職課程履修者同士の交流を図り、教員に必要な縦のつながりの意識付けを行っている。具体的には、高学年の課程履修者に依頼し低学年の課程履修者への課程履修のポイントや指導案作成指導等を適宜行っている。教員のような上下関係がしっかりした職業では、このような「教える力」や「教わる力」を身に付け実践していくことが重要であるため、学生同士の上下の交流はその訓練の場であると捉えて、学生には積極的に参加させるよう声かけを行っている。

国際経営学科の取り組み

国際経営学部国際経営学科

准教授 高木正史

別府大学に国際経営学部国際経営学科が設置され、4年目を迎えた。そして、現在に至っては、国際経営学科学生の教職課程履修学生数も増え、各人が教員免許状（国際経営学科では高校第一種「商業」、「公民」、「情報」、中学第一種「社会」の取得が可能）の取得に向け、勉学に励んでいる。

平成24年度は、国際経営学科における教育実習生2名（国際経営学科4年生、繁里佳奈ならびに同学科4年生、渡邊慧）が、大分県立大分商業高等学校において、教育実習を行った。なお、両名ともに、実習先での担当科目は、国際経営学科の専門科目と密接に関連する、簿記を中心とした商業に属するものであった。

さらに、平成24年11月15日（木）においては、「おおいた教育の日」に関連した行事の一つとしての、大分県立大分商業高等学校教諭、末次宏庸氏の公開授業（「経済活動と法」）を、上記実習生2名ならびに次年度に同高校にて教育実習を行う予定の教職課程履修学生2名とともに見学したが、末次氏の授業では評判通りの楽しい授業展開が行われ、見学学生は大いに勉強となったものと確信している。また、授業終了後の末次氏に対する質疑応答に際し、末次氏の、「良い授業を行うためには徹底した教材研究が重要であり、世の中の諸問題に常に敏感になることが必要である」といった現場の声は、まさに、教育者を目指す学生に対しての有意義なメッセージとなった。

これからも、このような授業参観等の機会を他の教職課程履修学生に対しても設定し、ビジネス教育の現場の視点に立つことができる教育者の育成を行っていきたい。

別府市立浜脇中学校学習支援ボランティア

文学部教職課程

准教授 今井航

教職課程では、別府市立浜脇中学校からの要請により、浜脇中学の生徒に対して定期テスト前の数日間、第6期模擬授業の会の委員を中心に教職課程を履修している大学生数名で、放課後学習の支援を行った。平成24年度における期日とそのボランティア数を挙げれば、以下の通りとなる。

平成24年6月25日（月）：2名、26日（火）：2名

平成24年11月26日（月）：3名、28日（水）：4名

平成25年2月18日（月）：6名、19日（火）：4名

昨年度は4回実施されたが今年度は3回であった。これまで通り来年度も実施される予定である。積極的に参加をして欲しい。